

2023年8月18日

2023年度新入生意識調査の結果概要

教育総合研究所高等教育部門

2023年度新入生意識調査のポイント

- ① 2023年度新入生意識調査はオンライン（manaba）で実施した。有効回答数は2,715、有効回収率96.3%であった。
- ② 新入生の出身地は宮城県が6割を占める。新学科は全体的に宮城県出身率が高い。
- ③ 出身高校種別は進学校の割合がやや減少傾向にある。新学科は全体的に進学校・準進学校出身者の割合が多い。
- ④ 本学の志望理由は「入りたい学部・学科・コースがあったから」「就職が有利になりそうだから」の2つが特に多い。新学科では、全ての学科で前者が第1位となった。
- ⑤ 本学を第一志望とする新入生の割合は増加傾向にあり、2023年度は約72%であった。
- ⑥ 東北学院大学に入学したこと、および所属学科に入学したことの満足感はいずれも90%を超えており、学科による大きな違いはなかった。

1. 2023年度新入生意識調査について

本学では、新入生への教育・指導および入学者募集のための基礎資料とすることを目的として新入生意識調査を毎年実施している。

2019年度までの新入生意識調査は、4月初旬の新入生オリエンテーションにおいて新入生に調査票（マークシート式）を配布し、その場で回答および調査票回収を行う集合自記式で実施していた。しかし、2020年度以降は新型コロナウイルス感染症対策のため新入生オリエンテーションがすべてオンライン形式となり、新入生意識調査もmanabaのアンケート機能を利用しての実施となった。2022年度からは新入生オリエンテーションは対面実施となったが、新入生意識調査はmanaba上での実施が継続された。2023年度調査も2022年度と同様の方法で実施された。

2023年度新入生意識調査の流れは以下の通りである。(1)各学科のmanaba用アンケートファイルを教育総合研究所が作成し、各学科の1年生用manabaコースにアンケートを設定した。(2)教育総合研究所長から学生部に新入生オリエンテーション期間中のアンケート

トの実施を依頼した。(3) 対面式で実施した新入生オリエンテーションにおいて、グループリーダーから新入生に回答を呼びかけた。当初は実施期間を2023年4月3日から4月7日としていたが、回答状況が良くないことから実施期間を4月13日まで延長、さらに4月20日まで再延長した。(4) 実施期間終了後、教育総合研究所が回答データファイルをmanabaからダウンロードした。

各学科の回収率は表1の通りである。2022年度(96.2%)に引き続き、高い回収率を達成することができた。

表1 2023年度新入生意識調査回収状況

	回答者数	新入生数	回収率(%)		回答者数	新入生数	回収率(%)
英文	150	157	95.5%	電気電子	128	133	96.2%
総合人文	59	60	98.3%	環境建設	116	120	96.7%
歴史	171	176	97.2%	データサイエンス	203	213	95.3%
教育	73	73	100.0%	地域コミュニティ	154	154	100.0%
経済	419	444	94.4%	政策デザイン	152	153	99.3%
経営	331	351	94.3%	心理行動科学	165	168	98.2%
法律	350	363	96.4%	国際教養	134	134	100.0%
機械知能	110	119	92.4%	全体	2,715	2,818	96.3%

2. 結果の概要

新入生意識調査の質問事項は多岐にわたる。このため本報告書では、以前の調査結果と比較して特徴的であると思われる事項、広報や学生指導に関して重要であると考えられる事項を選んで報告する。加えて、2023年度は学部改組の初年度ということもあり、新学部・新学科(情報学部データサイエンス学科、地域総合学部地域コミュニティ学科・政策デザイン学科、人間科学部心理行動科学学科、国際学部国際教養学科)の特徴の把握にも焦点をあてる。

本報告書では、(1) 学科別の出身高校所在地、(2) 出身高校種別、(3) 受験理由(志望理由)、(4) 志望順位、(5) 入学満足感、の5点を取りあげる。調査結果の詳細については、全学および各学科の単純集計表を参照のこと。

2.1 出身高校所在地

図1は2023年度新入生の出身高校所在地をまとめたものである。宮城県が60%以上を占めることはここ10年変わっていないが、その割合は緩やかに減少傾向にある。2023年度は、前年度と変わらない数値となった。

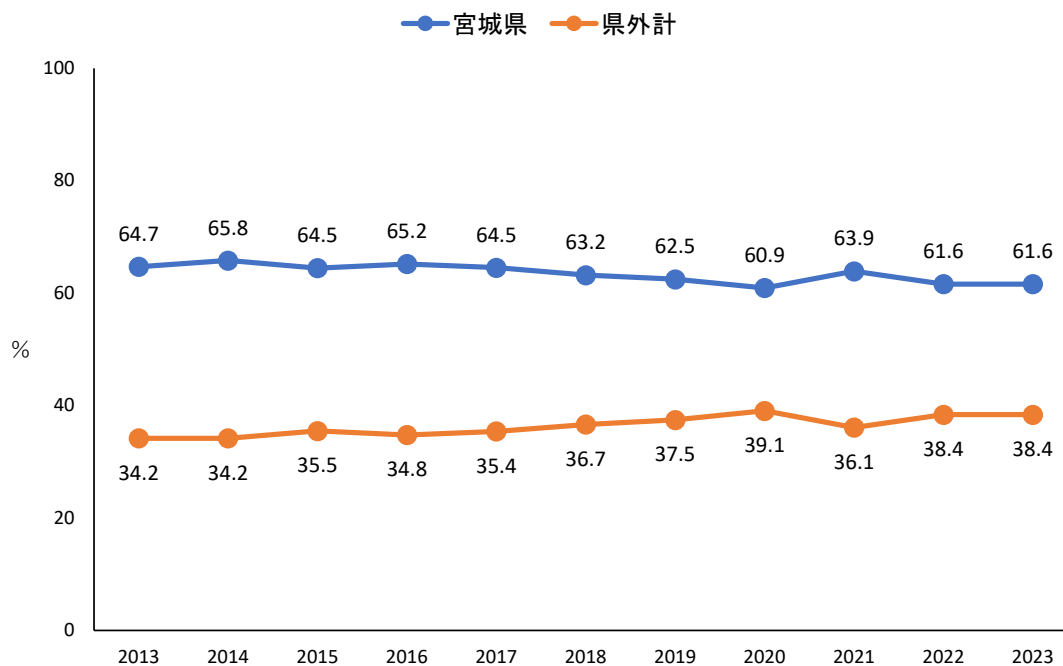


図1 出身高校所在地の変化 (2013-2023年度)

図2は、新入生の出身高校所在地を学科別に比較したものである(宮城県率の低い順に並べ替え)。新学科では、政策デザイン学科と地域コミュニティ学科の宮城県出身者比率が全体(全学科平均)よりも低く、それ以外の学科は全体よりも高い。

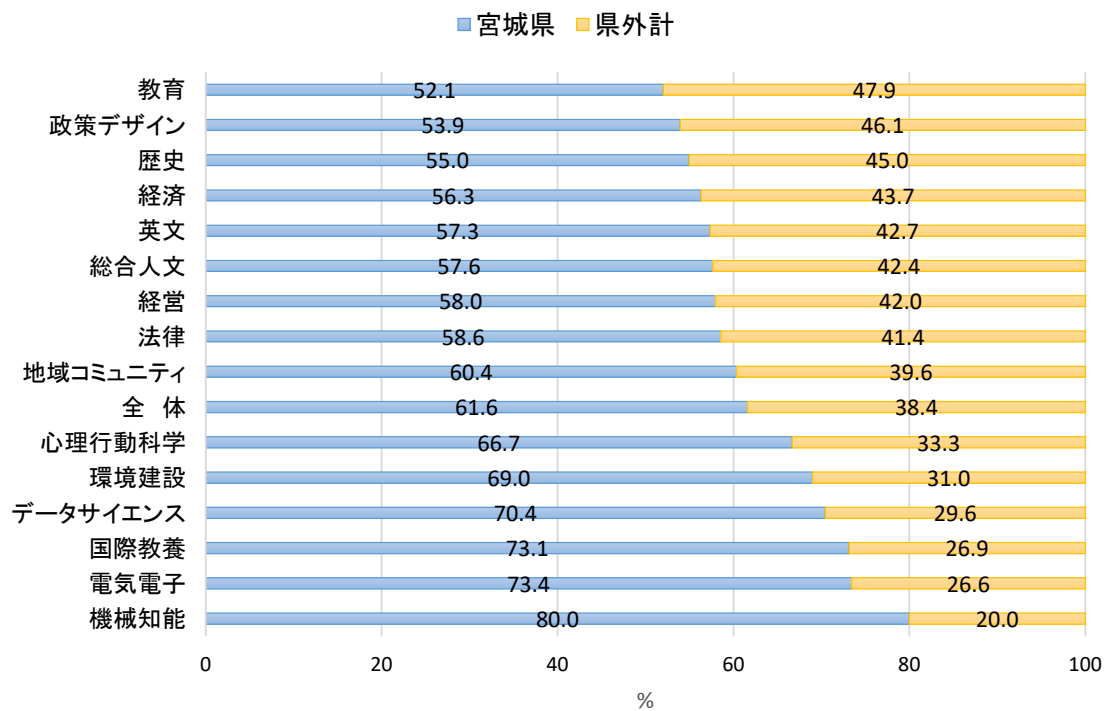


図2 学科別出身高校所在地（2023年度）

2.2 出身高校種別

新入生意識調査では、次のように出身高校の種別（教育レベル）を質問している。

あなたが卒業した高校は次のうちどれに該当しますか。

- 1 進学校だった（4年制大学志望者がほとんど）
- 2 どちらかといえば進学校だった（4年制大学志望者が半分以上）
- 3 どちらかといえば、進学校ではなかった（4年制大学志望者が半分以下）
- 4 進学校ではなかった（4年制大学志望者はほとんどいない）
- 5 非該当（高卒認定試験合格者）

ここでは1を「進学校」、2を「準進学校」、3を「準非進学校」、4を「非進学校」と呼ぶことにする。図3は、2013年度以降の出身高校種別の変化をまとめたものである（「非該当」を除外したため、合計は100%にならない）。

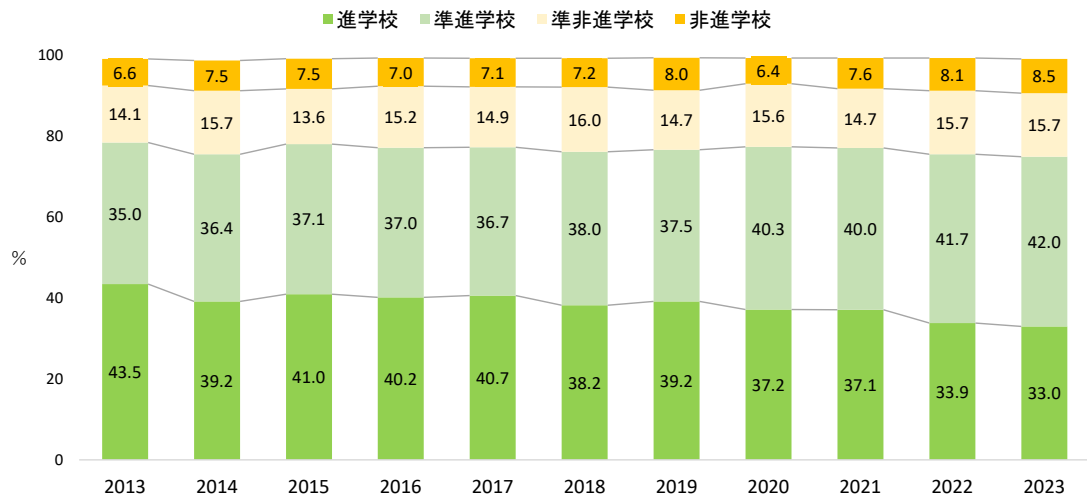


図3 出身高校種別の変化（2013-2023年度）

ここ10年の間に進学校の割合が約10ポイント減少し、それ以外の高校、特に準進学校の割合が増加したことがわかる。

図4は、2023年度の各学科の出身高校種別構成を比較したものである（進学校と準進学校の合計比率が高い順に並べ替え）。図3同様、「非該当」を除外したため、合計は100%にならない。

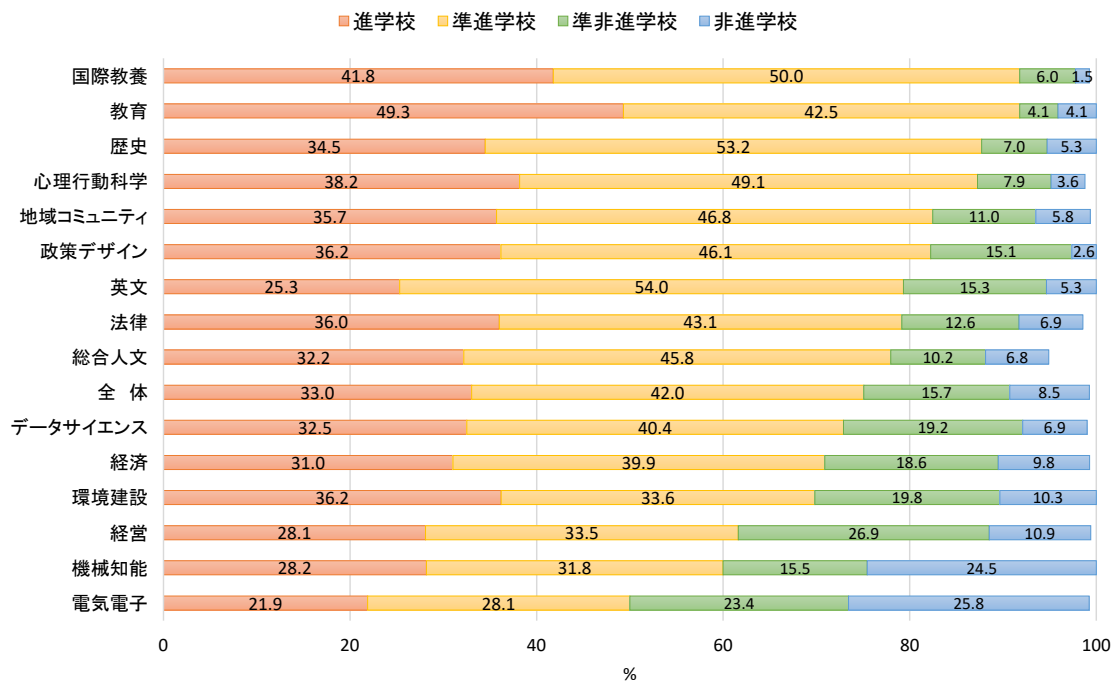


図4 学科別出身高校種別（2023年度）

新学科の出身高校種別構成はデータサイエンス学科が全体（全学）とほぼ同じで、それ以

外の新学科は、大学全体の構成比よりも進学校および準進学校出身者の割合が高い。特に、国際教養学科は文学部教育学科と並んで進学校および準進学校出身者の割合が90%を超えている。

2.3 受験理由

新入生意識調査では、次のように本学を受験した理由を質問している（複数回答）。

あなたが東北学院大学を受験した理由は何ですか。

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 伝統があり、定評のある大学だから | 7. キリスト教に基づく大学だから |
| 2. 就職が有利になりそうだから | 8. 入りたい学部・学科・コースがあったから |
| 3. 自分の学力に相応していたから | 9. 自宅から通える大学だから |
| 4. すべり止めとして適当だったから | 10. 仙台にある大学だから |
| 5. 適当な入試制度があったから | 11. その他 |
| 6. 兄姉、先輩など知っている人が入学しているから | |

これまでの新入生意識調査で回答比率が比較的高かったのは、「伝統があり、定評のある大学だから」（伝統・定評）、「自分の学力に相応していたから」（学力相応）、「入りたい学部・学科・コースがあったから」（志望学科）、「就職が有利になりそうだから」（就職有利）、「自宅から通える大学だから」（自宅通学）、の5つであった（詳細は略）。

表2は、2023年度の実験理由の上位3位を学科別にまとめたものである。各学科の実験理由の第1位は「志望学科」または「就職有利」のいずれかであるが、新学科は全て「志望学科」となっており、特に国際教養学科と心理行動科学科の回答比率が高かった。新学科の2位と3位は「就職有利」か「自宅通学」のいずれかで、これらの比率に学科間で大きな違いはなかった。

表2 2023年度の受験理由上位3位（学科別）

学科	受験理由（複数回答）					
	第1位	%	第2位	%	第3位	%
英文	志望学科	54.7	自宅通学	40.7	就職有利	32.7
総合人文	志望学科	66.1	自宅通学	37.3	学力相応	33.9
歴史	志望学科	63.2	自宅通学	37.4	就職有利	32.2
教育	志望学科	61.6	就職有利 伝統定評	35.6	自宅通学	34.2
経済	就職有利	56.3	伝統・定評	33.2	自宅通学	29.8
経営	就職有利	49.5	志望学科	48.3	伝統・定評	36.9
法律	志望学科	47.1	就職有利	44.9	自宅通学	37.7
機械知能	就職有利	53.6	志望学科	48.2	自宅通学	41.8
電気電子	就職有利	60.9	志望学科	43.8	自宅通学	39.1
環境建設	就職有利	49.1	志望学科	48.3	自宅通学	31.0
データサイエンス	志望学科	54.2	就職有利	41.9	自宅通学	41.4
地域コミュニティ	志望学科	53.9	就職有利	48.7	自宅通学	41.6
政策デザイン	志望学科	55.3	就職有利	40.8	自宅通学	34.2
心理行動科学	志望学科	65.5	自宅通学	42.4	就職有利	33.9
国際教養	志望学科	76.1	自宅通学	41.8	就職有利	32.8
全体	志望学科	50.6	就職有利	45.0	自宅通学	36.6

注)教育学科の「就職有利」と「伝統定評」は同率2位

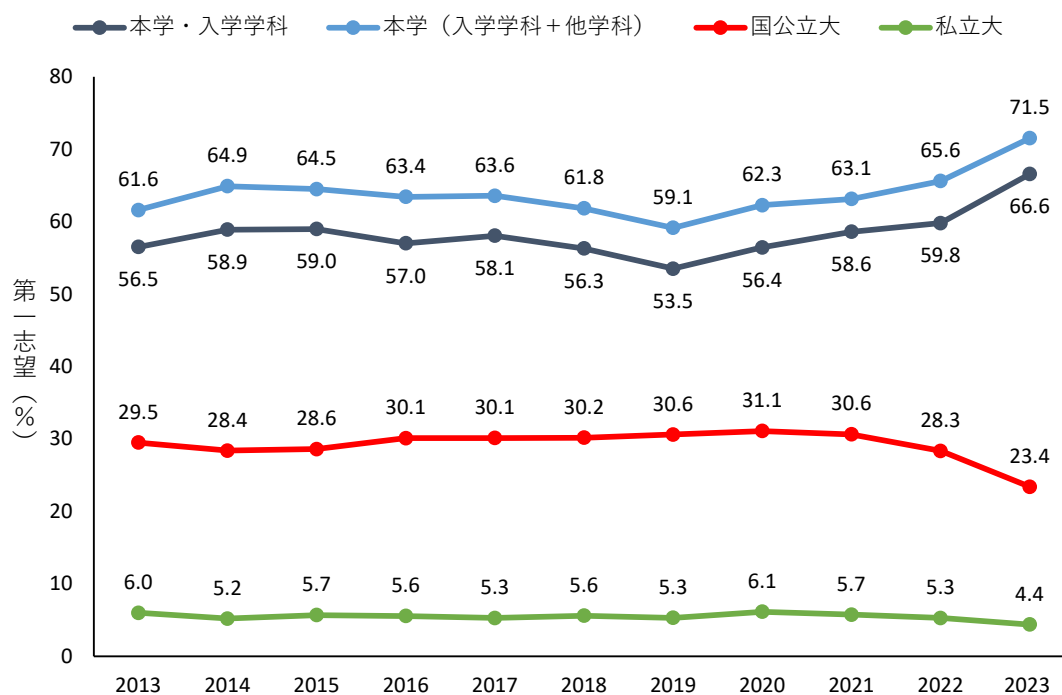
2.4 東北学院大学の第一志望率

図5は、「あなたが東北学院大学を受験する時点で、あなたの第一希望の大学はどこでしたか」という質問への回答の変化をまとめたものである。選択肢は「本学・入学学科」「本学・他学科」「国公立大」「私立大」「その他」の5つである。図5では、「本学・他学科」は単独では表示せず、「本学・入学学科」との合計比率（本学が第一志望であった比率）として示した。また、「その他」は少ないので省略した。

2023年度に本学の入学学科を第一志望とした学生の割合は前年度から約7ポイント上昇して66.6%となり、比較的大きな増加となった¹。2021年度以降、国公立大学を第一志望とした学生の割合が減少しており、その減少分がこの増加につながっている。また、本学を

¹ 第一志望に関する質問は、全学部学科共通の質問の後に追加される「学科別質問」に含まれる。2022年度までは全学科が同一形式で第一志望の質問を実施していたが、2023年度調査では国際教養学科のみ質問形式を変更したため、国際教養学科の結果は全学の数値に算入しなかった。このため、2023年度の数値は2022年度以前とは厳密には比較できないことに注意が必要である。学科別質問については教育総合研究所（2022年度以前は教育研究所）から各学科に対し毎年度内容確認を行っており、新学科については前身となる学科の学科別質問を示した上で学科別質問を作成するよう依頼した。国際教養学科の第一志望に関する質問の形式変更は、国際教養学科の指示によるものである。

第一志望とした学生の割合（「本学・入学学科」と「本学・他学科」の合計）は71.5%となり、2013年度以降で最も高い数値となった。



注) 2022年年度以前の数値は全学（全学科）の結果、2023年度の数値は国際教養学科以外の全学科。

図5 第一志望の変化（2013-2023年度）

2023年度新入生について、学科別に第一志望をまとめたものが表3である（国際教養学科のみ他学科と質問形式が異なるため、第一志望以外の数値は表示しない）。新学科の場合、入学学科を第一志望と回答した学生の比率は5学科中4学科で全体（全学平均）を上回っている。既存学科では、英文学科と経営学科の第一志望率が高かった。

表3 2023年度新入生の第一志望の構成（学科別）

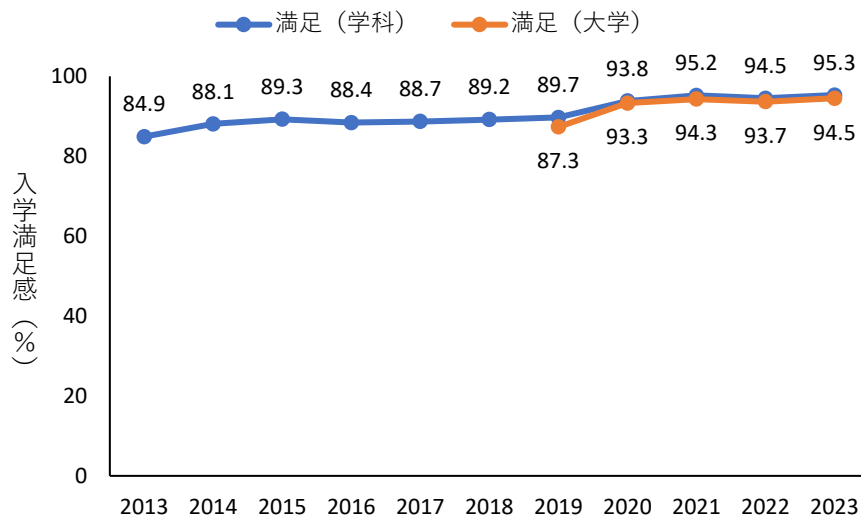
学科	第1志望					
	本学・入学学科	本学・他学科	本学（入学学科 +他学科）	国公立大	私立大	その他
英文	70.7	8.0	78.7	17.3	3.3	0.7
総合人文	52.5	5.1	57.6	32.2	10.2	0.0
歴史	64.9	2.3	67.3	24.0	7.6	1.2
教育	53.4	2.7	56.2	41.1	2.7	0.0
経済	63.2	8.1	71.4	23.4	4.3	1.0
経営	76.1	3.3	79.5	13.3	6.3	0.9
法律	59.7	5.1	64.9	26.9	6.6	1.7
機械知能	66.4	8.2	74.5	23.6	1.8	0.0
電気電子	70.3	3.9	74.2	20.3	4.7	0.8
環境建設	67.2	1.7	69.0	25.9	4.3	0.9
データサイエンス	68.5	4.4	72.9	26.1	1.0	0.0
地域コミュニティ	71.4	3.9	75.3	24.7	0.0	0.0
政策デザイン	62.5	7.2	69.7	27.0	3.3	0.0
心理行動科学	72.7	1.2	73.9	23.0	3.0	0.0
国際教養学科	70.9	—	—	—	—	—
全 体	66.6	5.0	71.5	23.4	4.4	0.7

注) 国際教養学科は他学科と質問形式が異なるため全体比率には算入せず、入学学科以外の回答比率も表示しない。

2.5 入学満足感

図6は、「東北学院大学に入学したこと」（大学入学満足感：2019年度以降で質問）および「東北学院大学の自分の所属学科に入学したこと」（学科入学満足感）の変化をまとめたものである（「たいへん満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計比率）。なお、学科入学満足感を質問するかどうかは各学科の判断に委ねられており、2023年度新入生意識調査では国際教養学科はこの質問を行わなかったため、2023年度の分析結果に国際教養学科の回答は含まれない²。

² これまでの新入生意識調査では、学科入学満足感は全学部学科共通の質問の後に追加される「学科別質問」の中に含まれていた。2022年度までは全学科が学科入学満足感を質問していたが、国際教養学科が作成した2023年度の学科別質問には学科入学満足感は含まれていなかった。



注1：入学満足感は「たいへん満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計比率

注2：学科入学満足感の2022年年度以前の数値は全学（全学科）の結果、2023年度の数値は国際教養学科以外の全学科の結果

図6 大学入学満足感および学科入学満足感の変化（2013-2022年度）

2020年度以降、大学入学満足感・学科入学満足感とも90%を越えており、高い水準を維持している。2023年度は大学入学満足感が94.5%、学科入学満足感が所属学科で95.3%と2013年度以降最高となった。

大学入学満足感を学科別に集計したものが図7、学科入学満足感を学科別に集計したものが図8である（いずれも「たいへん満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計比率が高い順に並べ替え）。いずれの学科においても満足感が高く、最も満足感が低い学科でも90%を超えており、入学満足感に学科間で大きな差はないといえる。

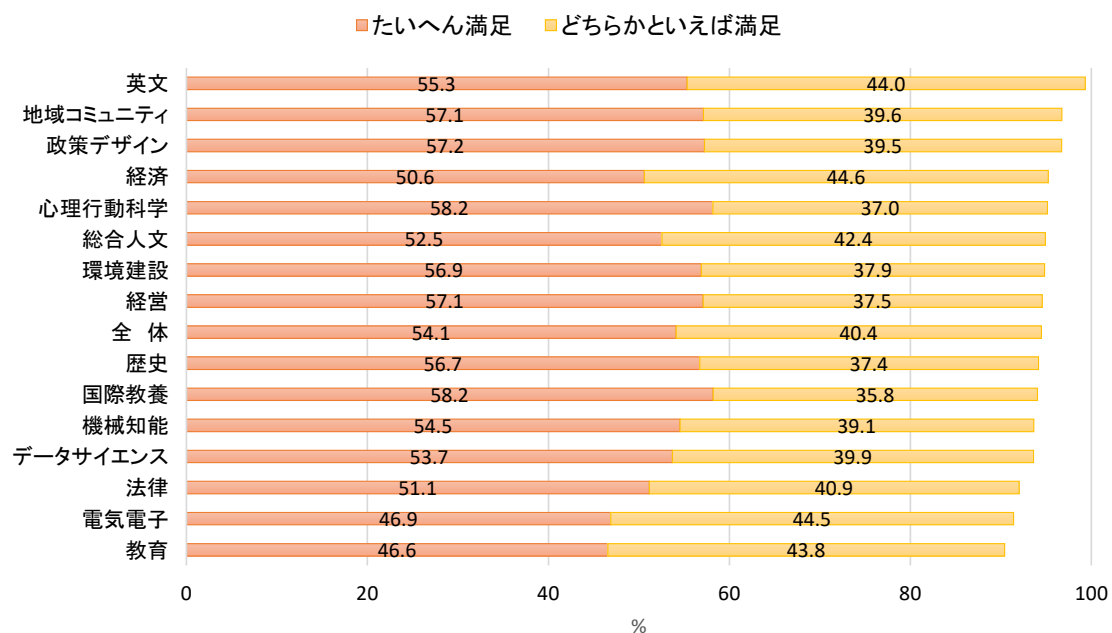
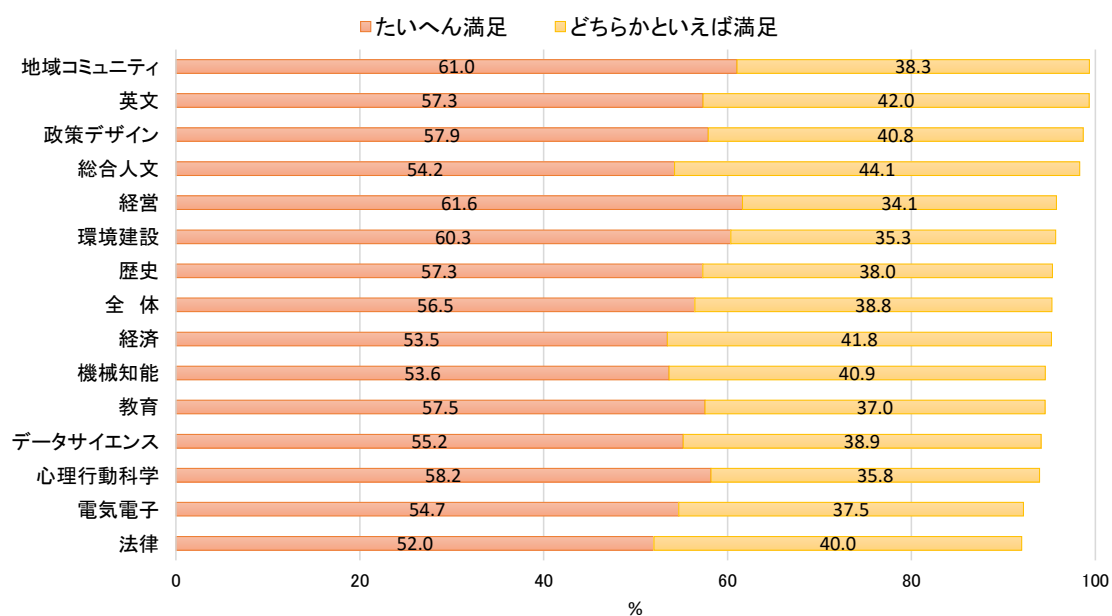


図7 2023年度新入生の大学入学満足感（学科別）



注：国際教養学科は学科入学満足感を質問していない。

図8 2023年度新入生の学科入学満足感（学科別）

3. まとめ

以上の結果をまとめると、次のようになる。

- ① 新入生の出身地は宮城県が6割を占める。新学科は全体的に宮城県出身率が高い。
- ② 出身高校種別は進学校の割合が減少傾向にある。新学科は全体的に進学校・準進学校出身者の割合が多い。
- ③ 本学の志望理由は「入りたい学部・学科・コースがあったから」「就職が有利になりそうだから」の2つが多い。新学科では、全ての学科で前者が第1位となった。
- ④ 本学を第一志望とする新入生の割合は増加傾向にあり、2023年度は約72%であった。
- ⑤ 東北学院大学に入学したことおよび所属学科に入学したことの満足感はいずれも90%を超えており、学科による大きな違いはなかった。

2023年度新入生は、これまでの新入生と同等かそれ以上に、高い希望と満足をもって本学に入学しているといえる。直接的な検証は難しいが、五橋キャンパスへの移転もこれらの結果に影響していると推測される。

以上